令和6年度　自己評価･自己点検のまとめ

令和7年3月20日
認定こども園　　みどりのかぜエデュカーレ

当園では、教育･保育の質の向上と社会福祉サービスの充実を目的として、職員一人ひとりの意識向上と園全体の取り組みの振り返りを行うために、チェックリストを活用して自己評価･自己点検を実施しています。子どもたちの健やかな成長と安全の確保、保護者や地域から信頼される園づくりを目指し、昨年度の良かった点･改善点を共有しながら、日々の保育の質を高める努力を重ねてまいりました。今後も地域に根ざした施設として、安心と信頼を育み、より満足度の高い環境を整えていきたいと考えています。

自己評価

① 教育･保育の質の向上について

保育教諭の専門性の向上を目指すため、園内研修をはじめ、外部研修（オンライン研修）、キャリアアップ研修等に積極的に参加し、新たな学びを日々の保育にいかせるよう、教育･保育の充実を図ってきた。

また、それぞれが学んだことは園内研修を通して全職員に伝え共有しながら相互に教育の質の向上に努めてきた。公開保育を行い、幼児教育保育施設関係者の方々に参加頂き、実践を通して子ども達の学びや育ちについて理解を深め、子どもの主体性を尊重した保育の展開を大切にしていくことを再確認するとともに、保育教諭の役割の重要性について学びを深めることが出来た。

＜今後の展開＞

- 子どもの姿をより多面的に捉えられるよう、引き続き園内外の研修に積極的に参加し、得た学びを日常の保育実践の中で活かし、気づきや発見を仲間と共有しながら、保育の質向上につなげていく。
- 学びを日々の保育に反映させていくために、職員間でのカンファレンスや対話の機会を充実させ、子どもの発達に応じた関わり方や環境構成について共通理解しながら学ぶ。
- 教育･保育の実践をふりかえる機会を大切にし「子ども主体」の保育の質向上を図る。職員一人ひとりが深い理解と実践へとつなげていく力を身につけていきたい。

② 子どもが安心できる生活と遊びの場づくりについて

子どもたちが安心して生活し、意欲的に遊び込むための環境づくりは、保育の根幹を支える要素である。園内外の安全点検はもとより、保育室や遊具の使い方、動線の見直しなどを日々意識しながら整えてきた。また、日常的に「子どもの命を守る」ことを念頭に置きながら、誰もが安心できる空間となるよう全職員が意識して取り組んでいる。

＜今後の展開＞

- 安心安全への意識を持てるよう、環境整備の責任感を明確に持ち、子どもの生活空間としての視点を忘れずに、職員全体で取り組みを進める。安心して遊びこめることを第一に考えた空間作りを意識し、日々の変化や成長に応じた柔軟な環境構成を心がける。
- 小さな不具合や破損への対応を始めとする、日常の安全点検の重要性を全職員で共有し、子どもが安心して遊べる場づくりを意識する。
- 子どもの興味や関心に寄り添いながら、遊びを通して学びや育ちを支える空間を整えていく。

③ 防災意識の育成と実践的な安全教育について

災害時の対策については、職員間で動線を確認し合うなど、避難の仕方が浸透しており、子ども達が泣いたり、戸惑ったりすることなく声掛けをよく聞いて行動する姿が見られる。また、園内での防災訓練に加え、近隣の中学校との合同避難訓練を実施し、地域連携による防災対応の強化を図った。一方で、災害は予測不能であることを念頭に、実践的な訓練や対応マニュアルの見直しの必要性を感じる場面も多くあった。今後も訓練を通して学んだことを生かしながら、スタッフはもちろん子ども達一人ひとりが防災意識を高め、「自分の命を自分で守る」力を育み、防災を日常の中に根づかせていく視点が重要だと考える。

＜今後の展開＞

- 災害時の役割分担と職務を再確認し、全職員が自主的に行動できる体制を整える。子どもたちを安全に避難誘導するためには、迅速な動きができるような実践的な訓練をする。
- 訓練後の振り返りと改善提案を活かし、迅速に対応できる準備を進める。現場での対応力を高めるとともに、保護者への周知や協力体制の強化も意識して取り組んでいく。

④ 食育を通して育む心と体の健康について

給食会議や系列園との連携を通じて、アレルギー対応や離乳食の進め方に関する学びを深め、安心・安全な給食提供を継続してきた。また、菜園活動や調理体験、季節の食材を活かした献立作りなど、食にまつわる体験を通して「食べることの大切さ」や「食材への感謝」の気持ちを育てる機会を作ることが出来た。

＜今後の展開＞

- 給食と保育の連携をさらに強化し、アレルギーや成長段階に応じた個別対応を丁寧に行う。子ども一人ひとりの食のリズムや好みに合わせた声かけや関わりを大切にし、楽しい食事の時間を共有していけるよう工夫する。
- 自園調理の魅力を活かし、子どもたちが「育てる・調理する・食べる」一連の体験を通して食材に親しみを持てるよう、園内の畑活動や地域食材の活用を通じて、食への関心と感謝の気持ちを育てていく。

⑤ 子育て支援地域支援の充実について

「にこりん」や「つながり食堂ほっこり」など、地域交流の取り組みを継続した。参加する保護者や地域の方々にとっても、気軽に集える場所として定着しつつあり、子どもたちにとっても多様な人とのふれあいが貴重な学びとなっている。こうしたつながりを、子育て世代の支援や地域の支援にもつなげていけるよう、より一層、積極的に展開し取り組んでいきたい。

＜今後の展開＞

- 活動の中での対話や交流を大切にし、保護者との信頼関係をさらに深めていく。子育てに関する悩みや不安に耳を傾け、保護者にとって安心できる場となるような工夫を重ねていく。
- イベント時の安全管理体制や緊急時の対応マニュアルを整備し、継続的な支援活動が行えるようにする。また、地域団体との連携を更に深め、子どもを中心とした共助の輪を広げていく。

自己点検分析

① 子どもの理解

子どもたちと触れ合う中で、一人ひとりの個性を尊重し、日々の関わりを通じて、その子らしさを見つけたり、子どもの表情や言動の背景にある気持ちや思いに丁寧に寄り添い、よりよい発達や成長に合わせた関わりを考えていきたい。さらに、遊びのテーマや教材の選び方を工夫し、子どもが夢中になれる環境づくりを意識していきたい。

② 危機管理

定期的な点検と安全教育に加え、ヒヤリハット事例の共有を通じて職員間の連携を強化し、子どもたちの安心・安全を守るために未然防止に努めていきたい。

③ 保護者対応

保護者の不安や疑問に寄り添い、信頼関係を築くためには、日常の小さな関わりの積み重ねが何より大切だと考え、職員全体で保護者への誠意ある対応と言葉がけを心がける、園全体の信頼向上につながるよう努めていきたい。

クレドの見直し

園の理念が具体的に示されている「保育クレド」は、職員にとっての道しるべとなっている。全職員がクレドを基盤に行動することで、組織全体の志気につなげていきたいと考える。今後は、クレドの内容や表現が現場の実態とより結びつくように見直しを図りながら、全職員の行動の基盤につながるような活用を目指し、園の真髄を共有していきたい。

まとめと今後の展望

≪園として≫

- 職員一人ひとりが自らの役割と責任を自覚しながら、質の高い保育を提供できるよう研鑽を重ねていく。また、学びを重ねる中で、子どもたちにとってより豊かな人的環境となるような関わりを意識していきたい。
- 地域に根ざした園として、孤立しがちな子育て家庭への支援や、誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりを通じて、地域社会に貢献しながら、有事の際には地域の安心拠点となれるよう、日常からの備えを大切にする。そして、災害時に地域と連携できる実践的な体制づくりに取り組んでいく。
- 保護者との信頼関係を丁寧に築き、連携を深めながら、家庭と園が一体となって子どもを育てていくパートナーとして役割を果たしていきたい。また、園からの情報発信にも一層工夫を加えていきたい。

≪スタッフとして≫

- 各自が主体的に学び、チームの中で学び合う風土を育て、互いに支え合いながら、よりよい保育実践を目指す。子どもにとって安心できる存在であると同時に、同僚性を高め、安心して意見を出せる職場環境を目指していきたい。定期的な振り返りの場やテーマごとの話し合いを取り入れ、対話的な関係づくりを心がけていく。
- 事故や怪我の未然防止に努め、日々の保育の中で小さな変化にも気付き合える感性と対応力を育てていく。子どもの命と育ちを預かる専門職としての誇りと責任を持ち、保育者としての質を高めていく。常に子どもの視点に立ち、冷静に対応できる実践力をさらに養っていきたい。

- 喜びや達成感を感じられる職場づくりを目指し、笑顔で前向きに日々の業務に取り組むことで、子どもたちにとって良い人的環境になる。スタッフ同士の共助、感謝や労いの言葉を大切にし、信頼関係に基づいたチームづくりを進めていきたい。